

「論理的思考の実践③～立論・反駁の準備」教員指導案

- (1) 目標：ディベートを通し、論理的思考力を育成する。
- (2) 教材：①ディベートエントリーシート
 - ②「論理的思考の実践③」ワークシート1（A3片面 各班2枚【肯定側1枚、否定側1枚】）
 - ③「論理的思考の実践③」ワークシート2：ディベート準備用紙
- (3) 持ち物：筆記用具、AKC ファイル
- (4) 事前準備：
- (5) 担当者：各クラス担任（各教室で実施）
- (6) 本時の指導計画

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 2分	本時の内容の確認		<ul style="list-style-type: none"> ・本時は「肯定側・否定側」に分かれ、「ディベート」の準備を行うと伝える。
展開1 10分	役割決め 座席の移動 論題・プランの確認	<ul style="list-style-type: none"> ・各ディベート班で肯定側、否定側に分かれ、プラン・役割を決めさせ、ディベートエントリーシートに記入させる。 ・肯定側、否定側で「記録係」を各1名決める。 ・「ワークシート1」(1)にディベートエントリーシートから、論題・プランを転記する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定側、否定側同士のやりとりは必要最小限に止めるように指示する。 ・「ワークシート1」を肯定側、否定側に各1枚、「ワークシート2」を各自に1枚配布する。 ・「記録係」を決めさせる。
展開2 30分	ワークシート1の記入（班）	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定側、否定側の各メンバーと意見交換をしながら、「ワークシート1」を記入する。 ・AKC○の時点では、記入しながら、資料として不足しているものや、追加するとよい資料などを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ワークシート1」に班で取り組ませる。 ・●月●日（●）のAKC終了時に「ワークシート1」は回収する旨を伝える。 <p>※AKC●の段階で資料の検討をさせて、資料を追加したい場合は、AKC△,□で持参させる。</p> <p>「ワークシート1」の記入が終わった班は、「ワークシート2」を使い、原稿の作成等を始めるように指示する。</p> <p>・前回配布した資料も参考にするように伝える。</p>
まとめ 2分	本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・AKC□の終了時までに、肯定側、否定側の記録係は「ワークシート1」を提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AKC○,△の終了時には、ワークシート1を記録係に保管させる。 ・AKC□の終了時までにワークシート1を回収する。

※授業後：「ワークシート1」を肯定側・否定側の各人数分コピーし、記録係を介して返却する（原本は担任が保管する）。

＜ディベート エントリーシート＞

教員用

組 第 班

論 題 :

(例) 「日本は救急車の利用を有料化すべきである。是か非か」

プラン :

(例) ①救急車を有料化する。料金は、1回の利用につき定額1万円とする。

②来年4月から施行する。

	役割	番号	氏 名
肯 定 側	立論		
	応答		
	質疑		
	第一反駁		
	第二反駁		
否 定 側	立論		
	応答		
	質疑		
	第一反駁		
	第二反駁		

<ディベート エントリーシート>

組 第 班

論 題 :

プラン :

	役割	番号	氏 名
肯定側	立論		
	応答		
	質疑		
	第一反駁		
	第二反駁		
否定側	立論		
	応答		
	質疑		
	第一反駁		
	第二反駁		

論理的思考の実践③～立論・反駁の準備～**<立論・反駁の準備>**

(1) ディベートエントリーシートを参考に、「論題」・「プラン」を確認し、以下に記入する。

論題	
プラン	

(2) プランを実行すると生じるメリット・デメリットを書き出す。

メリット	デメリット

(3) (2) を参考に、「立論」に用いる事項を決定する。

※ 本番は時間が限られており、すべてを話すことはできないので優先順位をつける。

「立論」に用いるメリット／デメリットの内容	根拠となる引用資料・データ 記入例：湘南新聞 2005年4月16日 「本当に救急車が必要？」	優先順位

(4) 「反駁」に用いる事項を決定する。

相手が立論等に用いる メリット／デメリット（予想）	反論内容	根拠となる引用資料・データ

ディベートに向けての注意事項

《注意事項》

- (1) 「立論」は、立論用の原稿を作成し、スピーチの練習をする。
- (2) 「質疑」は、相手の立論を予想し、質問できそうなポイントの目星を付ける。
- (3) 「応答」は、質疑に対して、明確に対応できるように、立論の内容をしっかりと理解しておく。
- (4) 「第一反駁」は、反駁用の原稿を複数用意し、相手の議論に応じて原稿を使い分けられるようにする。
(各班少なくとも2種類の原稿は作成すること。)
- (5) 「第二反駁」は、立論と反駁の内容をよく確認し、議論の総括をできるように準備する。
- (6) AKCディベートの試合の流れは、以下の通りとする。(再掲)

○試合の流れ ディベートは1試合34分(+判定講評8分程度)で行う。

肯定側(12分+5分)	否定側(12分+5分)
肯定側立論: 4分	*
*	否定側準備時間: 1分
*	否定側質疑: 2分
*	否定側準備時間: 1分
*	否定側立論: 4分
肯定側準備時間: 1分	*
肯定側質疑: 2分	*
*	否定側準備時間: 1分
*	否定側第一反駁: 3分
肯定側準備時間: 2分	*
肯定側第一反駁: 3分	*
*	否定側準備時間: 2分
*	否定側第二反駁: 3分
肯定側準備時間: 2分	*
肯定側第二反駁: 3分	*
判定表の完成: 3分 + 講評: 5分	

*「質疑(肯定側、否定側)」は、時間以内の終了を認める。

- (7) 「立論(応答)」・「第二反駁」の担当者は立論の原稿を、「質疑」・「第一反駁」の担当者は、第一反駁用の原稿(複数)を分担して作成する。

1年()組()班 (肯定側・否定側)

【 立論 · 第一反駁 】用原稿

作成者氏名（

